

令和7年度第1回千歳市入札等監視委員会議事概要

【開催日時】 令和7年9月4日（木曜日） 14時30分から15時15分

【開催場所】 千歳市役所本庁舎4階入札室

【出席者】 <委員> 下々村委員長、高田委員、堺委員
<説明者> 谷本契約管財課長、高橋経営管理課長（水道局）、元地水道整備課長（水道局）、川本下水道整備課長（水道局）
<事務局> 村上契約係長、佐藤契約係主任

1 審議内容

令和6年12月1日から令和7年6月30日までの期間に発注した予定価格が400万円を超える建設工事及び設計等委託業務の中から、当番委員が審議のために抽出した工事8件、設計等委託業務2件について

※別紙抽出事案一覧表参照

2 議事概要

別紙のとおり

3 報告事項

指名停止措置状況について

令和6年12月1日から令和7年6月30日までの期間に行った指名停止措置について、報告を行った。

4 次回委員会の開催日程等について

次回の委員会は、令和7年1月頃に開催することとし、審議案件の抽出は堺委員に決定した。

議 事 概 要

質 疑	回 答
<p>【焼却処理場煙突解体工事、蘭越水道管改良工事、北栄A団地3号棟設備改修工事】 いずれも落札率が99%以上と高く、適正な競争が働いているのか。</p>	<p>事業者は、市が事前にホームページで公表している設計図書を確認したうえ、履行可能な金額を積算して応札している。当該積算は、他者の動向を知ることができないなかで積算しており、落札率の高低に関わらず、競争性は確保できているものと認識している。</p>
<p>【路面下空洞調査委託】 ①落札率が100%となった経緯 ②落札率が100%である理由 ③5者指名のうち2者が辞退している理由 ④3者の入札で2者が失格となり、当該2者の入札金額が同一となった理由</p>	<p>①5者指名したうち、2者が辞退し、当該辞退者を除く3者で応札したが、2者が最低制限価格を下回ったため失格とし、失格者を除いた最低価格入札者を落札者としたものである。 ②落札率が100%となったのは、事業者が履行可能な金額を積算して応札した結果であり、落札率の数字に対する評価は難しいものと認識している。 ③「生産体制を組めないため」、「履行期間内に業務を完了することが困難なため」との理由で2者が辞退している。 ④事業者の積算精度の向上により、最低制限価格を類推した結果と捉えている。</p>
<p>【抽出案件全般】 落札率が高い傾向にある理由</p>	<p>落札率の高低について、受注者の積算に込められた意図を把握することは難しく、明確な理由は持ち合わせていない。</p>
<p>【市内舗装工事（日の出地区）】 落札率が他と比較して低い理由</p>	<p>上記回答と同じ。</p>
<p>【(7) 蘭越水道管改良工事】 入札参加者1者が無効となった事情</p>	<p>入札書に不備があり、無効とした。 具体的には、本工事につき、特定共同企業体での入札形式によるものだが、入札書には共同企業体の代表者だけでなく、構成員全員の記名押印を要することとなっている。 しかし、当該入札書には、代表者の記名押印しか記載がなく、他の構成員の記名押印が欠けていたことから、有効な入札の要件を満たしていないと判断し、無効とした。</p>
<p>【(6) 美々地区外下水道工事（4工区）】 ①落札率が99.9%と高い理由と、その他同様の工事がいずれも落札率が99.9%と同じである理由 ②管路DB方式（随意契約）を選定した理由と経緯 ③本工事の経済性は確保されているのか。</p>	<p>①設計業務と工事施工を一括発注する管路DB方式を採用している本工事の基本契約となる「(6) 美々地区外下水道管渠整備事業」について、一般競争入札方式を採用したところ、岩田地崎・中山建設・協栄・金田一・ドーコン特定共同企業体から請負率が99.9%を示す有効な入札があり、落札決定したものである。 当該契約の特徴として、受注者が契約後に実施する設計業務を通じて工事予定価格を算出し、当該予定価格に対して、入札により決定した請負率99.9%を乗じた金額で、個別の工事請負契約を結んでいくという仕組みとなっている。 したがって、基本契約に基づく個別の工事請負契約についても、同様に設計業務により算出された工事予定</p>

	<p>価格に対して、請負率 99.9%を乗じた金額での契約となる。</p> <p>②本工事は次世代半導体企業による当市内への工場建設に伴って、急速に整備が必要となった下水道管渠事業である。</p> <p>本工場は、令和8年10月から量産ライン稼働開始に伴い発生する大量の工場排水を市の公共下水道で受け入れる必要があるため、短時間での工事完了が求められるなか、通常の発注方式ではスケジュールに間に合わせる事が困難との判断に至り、工期短縮が可能となる方法として、管路DB方式を採用することとなった。</p> <p>③本事業においては、管路DB方式のなかでも、対象路線全体を一括契約する方式ではなく、基本契約の締結後、工区ごとに実施設計を行い、設計の完了した工区について、個別に工事契約する多段階契約方式を採用している。</p> <p>当該方式を採用することにより、工事契約前に、発注者の意思を設計内容に反映させることができるとともに、発注者のチェック機能を働かせることが可能となり、受注者の偏った設計による工事発注を防止することができるため、一定の経済性が確保されていると推察する。</p>
--	---